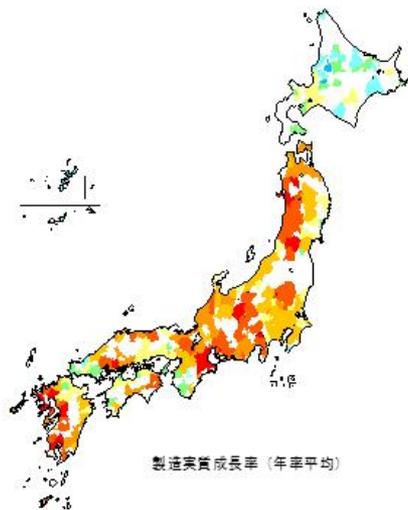


産業別の成長力の違い

- 「域外市場産業」のうち、製造業は生産性向上を前提に、堅調な成長が見込まれる。
- 「域内市場産業」は多くの経済圏でマイナス成長。医療・福祉は、ポテンシャルあり。

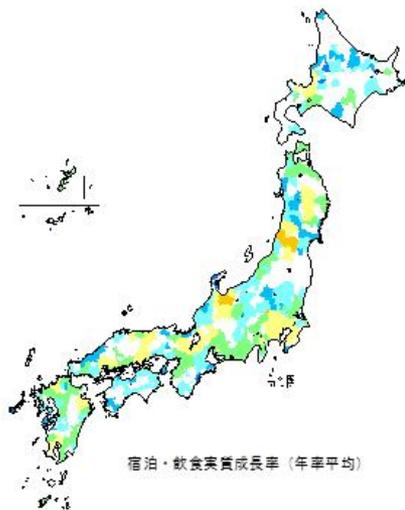
【製造】



製造実質成長率（年平均）

プラス成長:190/237

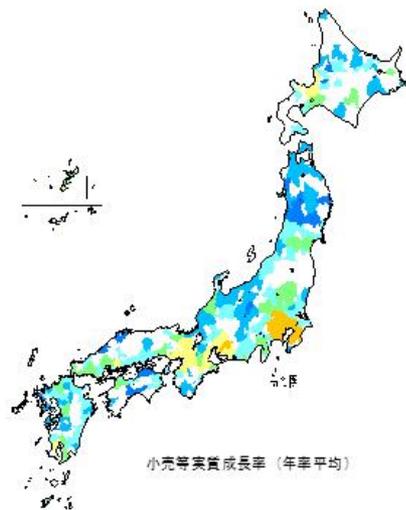
【宿泊・飲食】



宿泊・飲食実質成長率（年平均）

プラス成長:42/237

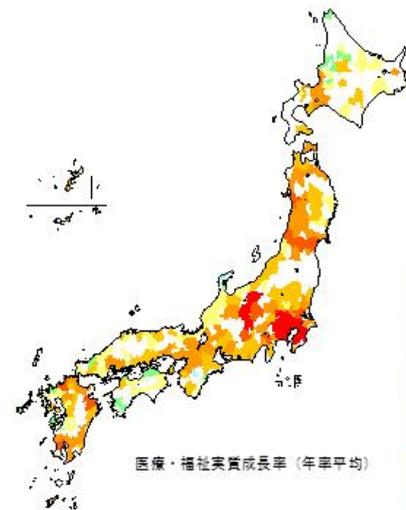
【小売等】



小売等実質成長率（年平均）

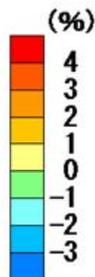
プラス成長:21/237

【医療・福祉】



医療・福祉実質成長率（年平均）

プラス成長:217/237



(注) 推定の前提:人口減少に伴う就業者数の変化に加え、生産性の変化を勘案して推定
域外市場産業:経済圏の域外から需要を取り込める、製造業、農業・観光業など
域内市場産業:経済圏内の需要の変化の影響を直接受ける小売・生活関連サービス業、医療・福祉業など

(出所)経済産業省「稼ぐ力研究会」第3回参考資料集

地方圏における中小企業の役割

- 全従業員に占める中小企業従業員の割合は、例えば、高知県、秋田県等で割合が高くなっており、中小企業は、特に地方経済を雇用面で支えている重要な存在。

都道府県ごとの企業規模別の従業者割合

	大企業	中規模事業者	小規模事業者
東京都	58.9%	30.1%	11.0%
大阪府	33.6%	43.7%	22.7%
愛知県	29.6%	47.1%	23.3%
群馬県	19.3%	47.0%	33.7%
秋田県	7.0%	54.4%	38.6%
高知県	7.3%	50.3%	42.4%

(資料)総務省・経済産業省「平成24年経済センサスー活動調査」再編加工

(注)従業者の数は、各事業所の所在する都道府県に計上している。

民間金融機関によるセクター別の貸出残高の推移

- 医療福祉分野や製造業など、成長セクターへの貸出は増加しており、貸出先の掘り起こしが重要。

＜貸出増加セクター(単位:兆円)＞

	2004年	2012年	2013年	2014年
医療・福祉	8.8	8.9	9.2	9.7
製造業	50.3	53.3	54.7	55.0
情報通信業・通信業	6.4	7.3	7.6	9.3
電気・ガス・熱供給・水道業	4.3	8.2	9.0	9.8

(注)各年度の第二四半期末(6月末)時点における貸出残高を抽出

(備考)1. 日本銀行「預金・貸出関連統計」により作成。

2. 調査対象は、国内銀行(都市銀行、地方銀行、第二地方銀行及び信託銀行)の銀行勘定、信託勘定及び海外店勘定の期末残高。

3. 事業性貸出は、法人への貸出より算出。